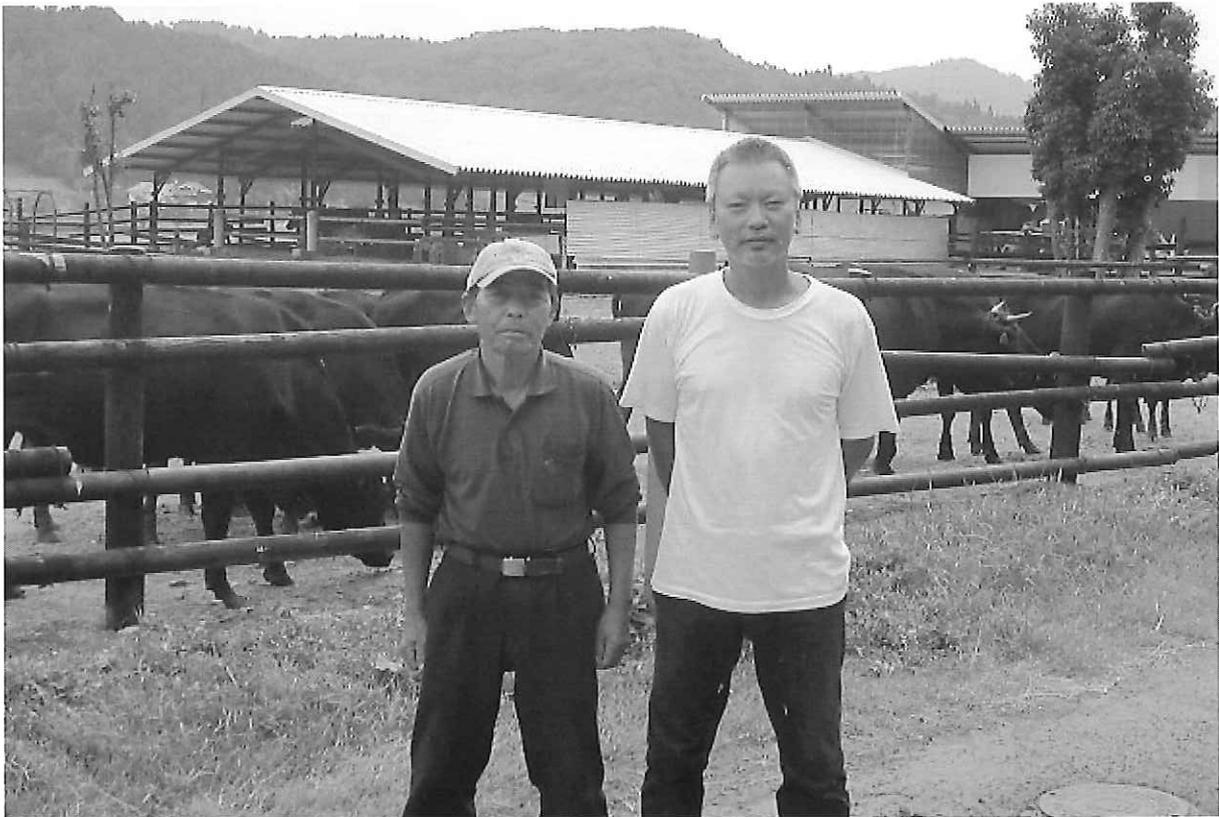


岡山畜産便り

2014 10

平成26年10月25日発行
第六十五巻第6号



美作市 吉川 鈺三さん(右、和牛繁殖)と師と仰ぐ大杉さん

も く じ

- | | |
|---|--|
| 第11回全国和牛能力共進会について
岡山県出品対策協議会 1
〔県民局だより〕
井倉牧場“奮闘中”頑張ってます！
備中県民局畜産第二班 3
〔家保のページ〕
さあ再点検しましょう！～飼養衛生管理基準～
高梁家畜保健衛生所 5
〔共済連だより〕
家畜診療日誌
西部基幹家畜診療所 石井 さやか 7
〔普及の現場から〕
井笠地域の取組紹介
井笠農業普及指導センター 8
〔技術のページ〕
岡山和牛のゲノム選抜の実用化に向けて
岡山県農林水産総合センター
畜産研究所改良技術研究室 10
〔畜産現場の声〕
和牛に魅せられて
吉川 鈺三 (美作市) 12 | 〔畜産女性の声〕
畜産って見えにくい！畜産って高次元だ！！
末澤 未央 (津山市) 13
〔ホットニュース〕
高梁市の上森亨・叔恵夫妻 全国自給飼料
コンクールで入賞
備中県民局農畜産物生産課 14
岡山県農林漁業近代化表彰の受賞
～有限会社まつだ牧場～
備前県民局畜産班 15
生乳検査NOW：H26年度上期
(一社)岡山県畜産協会生乳検査センター ... 16
〔お知らせ〕
・平成26年度和牛入門講座がはじまりました！
・伝染性下痢症による乳量低下はワクチンで
防ぎましょう
・畜産分野における動産担保融資(ABL)
について
(一社)岡山県畜産協会 18
〔ふるさとメッセージ〕
坂本 壽文 (農林水産省OB) 20 |
|---|--|

動物用医薬品
総合商社

MPアグロ株式会社

取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、
動物用機器・機材、土壌検査器具・機材 他畜産関連商品

事業所一覧

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13 TEL 011-376-3860 FAX 011-376-3450
岡山オフィス 〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号 TEL 086-224-1811 FAX 086-224-1819
AHSC西日本 〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号 TEL 086-270-9510 FAX 086-270-8371
御津物流センター 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4816 FAX 0867-24-4882

【中国営業部】

岡山支店 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4880 FAX 0867-24-4889
広島支店 山口支店 鳥取支店 島根支店

【四国営業部】高松支店 徳島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 兵庫支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 釧路支店 東京支店

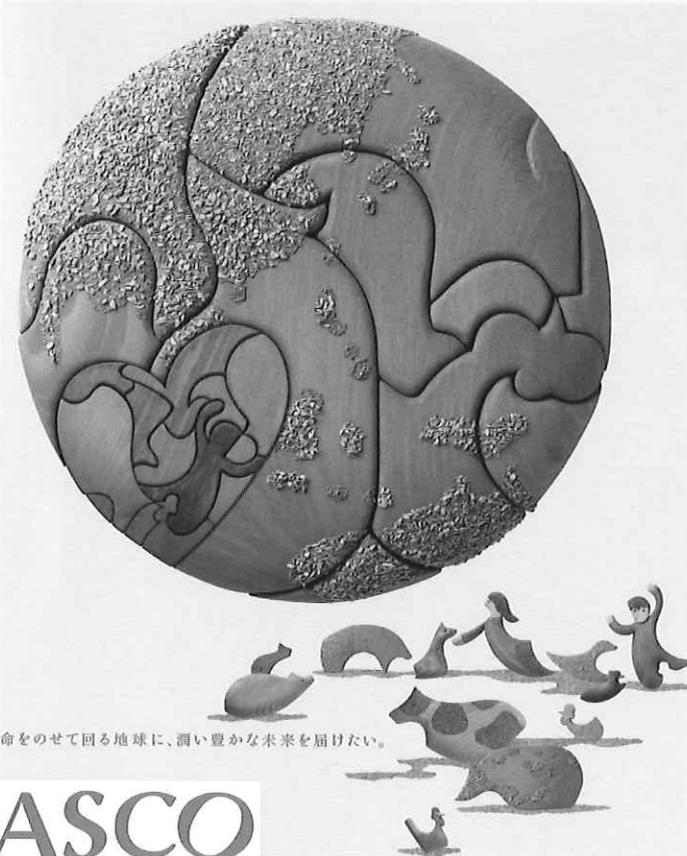
【東北営業部】青森支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 宮崎食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店 東京食品支店

※AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です



株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所 所在地

- ・東北支店
宮城、福島
- ・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

第11回全国和牛能力共進会について

岡山県出品対策協議会事務局

「全国和牛能力共進会」は、和牛の産肉性・繁殖性などの能力と斉一性の向上を目的に、5年に一度、全国の代表牛を一堂に集めて和牛改良の成果を競う大会であり、和牛のオリンピックとも呼ばれています。

記念すべき第1回大会は、昭和41年に本県で開催され、本県代表牛は全頭が優等賞を獲得するなど、輝かしい成績をおさめました。

記憶に新しい平成24年度に長崎県で開催された第10回大会での本県の成績は、花形区である総合評価群（7区）肉牛の部で、強豪の鹿児島県を抑え、堂々の全国2位に輝くなど、それぞれの大会で歴史ある和牛産地として「岡山和牛」を全国にアピールしてきました。



第10回大会7区対象種雄牛「新初英」

次回の第11回大会は平成29年9月に宮城県で開催されますが、いよいよ出品候補牛の作出のための準備が本格化してきます。本稿では、第11回大会の概要と、岡山県出品対策協議会の取組を紹介します。

1 第11回大会の概要

(1) 名称

第11回全国和牛能力共進会宮城県大会

(2) 開催テーマ

「高めよう生産力 伝えよう和牛力
明日へつなぐ和牛生産」

(3) 主催

公益社団法人 全国和牛登録協会

(4) 開催期間

平成29年9月7日(木)～11日(月)
(計5日間)

(5) 開催場所

- ・種牛の部会場
仙台市 夢メッセ宮城
- ・肉牛の部会場
仙台市中央卸売市場食肉市場

2 岡山県出品対策協議会の取組

第11回全国和牛能力共進会岡山県出品対策協議会は、平成25年3月19日に設立されており、前回大会の終了直後から、出品対策をスタートしました。

まず、出品委員会で各区の対象牛を決定し、7～9区肉牛の部の出品牛を作出するための受精卵採取を行っています。これは各県民局、各家畜保健所、畜産研究所が協力して採卵と性別を行い、雄卵は凍結保存し今年末の約1カ月間で一気に移植します。

対象種雄牛(平成25年度 第1回出品委員会で決定)

区	種雄牛条件	種雄牛名(対象牛の父牛)等
若雄(1区)	—	県産種雄牛
若雌(2,3区)	—	県産種雄牛
系統雌牛群(4区)	—	系統群の中から種雄牛作出が必要
繁殖雌牛群(5区)	—	県有種雄牛
高等登録群(6区)	—	娘牛・孫娘牛の父は県有種雄牛 また母牛の父は県有種雄牛が望ましい
総合評価群(7区)	H17.10.1生以降	北盛栄
若雄後代検定牛群(8区)	H22.10.1生以降	藤沢茂
去勢肥育牛(9区)	H17.10.1生以降	美咲鶴、北盛栄、藤沢茂など

これは、肉牛の部は月齢が24カ月齢未満という超若齢肥育で出品する条件があり、最低でも23カ月齢以上の肥育期間を確保するための取組です。

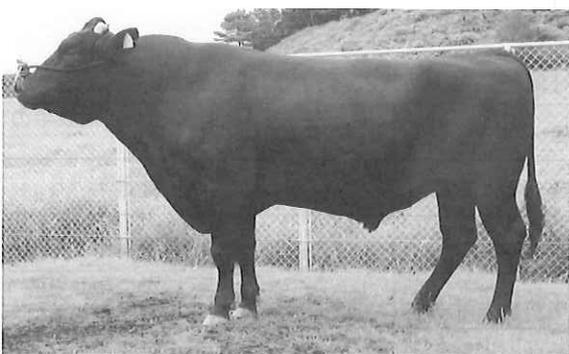
また、審査基準において、上位入賞するには枝肉重量の制限があります。雌肥育は肥育期間がかかり、枝肉重量面でも不利ですので、雌肥育の出品は全国的にも見られません。これが雄卵が必要な理由です。

次に、各区の対象種雄牛について紹介します。

7区は種牛4頭、肉牛3頭のセットで出品されますが、本来、後代検定成績が判明したものが対象となるのが適当と考えられ、その成績が優秀であった『北盛栄』号に決定しました。



第11回大会7区対象種雄牛「北盛栄」

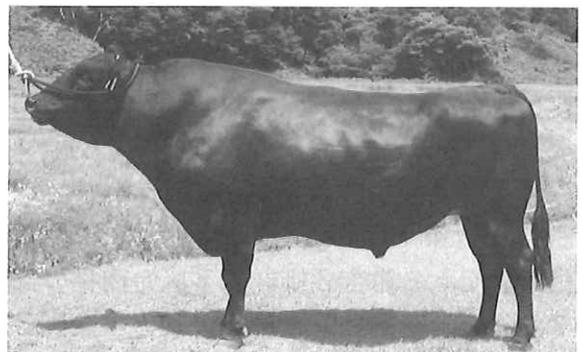


第11回大会8区対象種雄牛「藤沢茂」

若牛後代検定牛群（8区）は、その名のとおり産肉能力が判明する前の、若い種雄牛を対象にした区です。肉牛3頭がセットで出品されます。この区は、成績はないので、シンプルに期待育種価の高い種雄牛と

いうことで、『藤沢茂』号に決定しました。農家からの期待も大きいようです。

去勢肥育牛（9区）は2頭出品ですが、セットではなく、種雄牛はバラバラで出品できます。このことからわかるように、種雄牛というよりは、特に肥育技術を競う区となっています。この区の対象種雄牛は、『北盛栄』号、『藤沢茂』号に加え、『美咲鶴』号が対象となります。



第11回大会9区対象種雄牛「美咲鶴」

種牛についても出品対策協議会で、採卵と性判別（この場合は雌卵を使用）料金について補助し、また、県畜産研究所が家畜改良事業団の協力を得て作出した性判別雌精液を使用するなどして、出品牛の作出に努めていきます。既に、津山地区出品対策協議会では系統雌牛群（4区）と高等登録群（6区）についての取組が始まっており、新見市出品対策協議会では7区種牛の区の出産牛の母候補の巡回を終え、出品牛作出に向けて取組が始まったところです。

宮城大会まで3年を切っております。今後の出品対策にも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

〔県民局だより〕

井倉牧場 “奮闘中” 頑張ってます！

備中県民局 畜産第二班

はじめに

千屋牛は、歴史は古く、和牛のルーツとして全国的に知られていますが、近年の過疎化、高齢化に伴い、飼養農家数及び飼養頭数が減少しています。こうした状況を打破し、安定した肉用牛経営ができる生産基盤の確保を図るために、平成20年度に草地林地一体的利用総合整備事業で井倉牧場が設立されました。

新見市内の和牛繁殖農家の戸数減少、千屋牛の頭数減少の歯止めになるのであればと立ち上がってくれたのが、和牛農家の「7人の侍」です。

その7人で構成される井倉牧場利用組合の代表者を努めるのが森立夫さんです。組合員をまとめるリーダーシップを発揮し、地域の牛のために、日々邁進されています。また、この井倉牧場の牧場長を努めるのが小川軍紀さんです。小川さんは、試行錯誤の末、「超早期母子分離技術」を先進的に広められた方で、その温厚な人柄により人望も厚く、地域の指導者としての功績は顕著な方です。



井倉牧場の特徴

1 新見市の公共預託牧場として、高齢化が進む肉用牛農家で、急な病気や怪我などのトラブル発生時の受け皿として、牛を手放し廃業となるケースを、一時的に

井倉牧場に牛を預けることで、病気などの回復後に牛を継続して飼えるといった畜産農家戸数の減少を防ぐという重要な役割も果たしています。

2 新見市内外で生まれた和牛子牛を誕生後3～5日で受け入れ、哺育舎のカーフペンで哺育し、離乳後育成舎で市場出荷まで飼養管理を行っています。



3 預かった子牛は、毎月1回、体重、体高等の測定により、発育状況のチェックを行っていて、個体ごとの飼養改善対策を検討しています。



新たな戦力

平成25年11月から、井倉牧場に新見の診療獣医師である「峠田獣医師」が牧場の管理獣医師として加わり、預託繁殖牛の繁殖検診や病気の早期発見、早期治療に努めています。

また、子牛の哺育管理に小川軍紀さんの奥さんが加わったことで、子牛への愛情がこもった管理ときめ細やかな洞察力で、早

期の子牛の体調の変化を発見するなど、この二人の強力な参戦で、この牧場の子牛達は、すくすく大きく育っています。

井倉牧場の進化

今、井倉牧場は組合員の一致団結のもと、新しく生まれ変わり、つねに進化しています。

1 衛生対策

季節の変わり目には、各牛舎を洗浄消毒し、ドロマイト石灰塗布による疾病予防を徹底しています。



また、衛生害虫、カラス対策のために防虫ネットを哺育・育成牛舎に設置しました。

さらには、衛生害虫対策として、組合員自ら燻煙機消毒で、サシバエ、蚊の対策にも抜かりありません。

2 繁殖検診

繁殖和牛農家にとって、分娩間隔の短縮は、必須であります。この牧場に預託された繁殖母牛は、優秀な人工授精師でもある小川牧場長が発情を発見し、的確な処置を施しています。また、新戦力の峠田獣医師の繁殖検診により、受胎率が向上しています。

そして、さまざまな情報を取り入れ、肥育農家から求められる子牛生産を念頭に、交配などを地域のみならずと研究しています。

3 粗飼料の確保

繁殖和牛を飼養するためには、良質な粗飼料が不可欠です。

井倉牧場には、地域の和牛農家が組織する自給飼料共同生産組織「熊野粗飼料供給

センター」が粗飼料生産をバックアップしているから、預託された繁殖和牛は、皆、良い腹をしています。そして、粗飼料の肥料に井倉牧場の堆肥が利用されています。それも、この牧場が地域の農家との信頼関係が大きいことがうかがえます。

4 地域とのつながり

新見市和牛改良組合井倉支部は、代々開催している「井倉牛まつり」を平成26年度は井倉牧場で開催されました。川井支部長は、「高齢化が進んでいるが、この公共牧場を繁殖農家が集まり、交流する場所として大切にするとともに、牧場と繁殖農家が手を取りあって優良牛の生産に努めていきたい」と話されました。



今後の展望

この井倉牧場では、平成26年から新見市主催で実施される「千屋牛教育ファーム」事業で、小学生～高校生や新規就農希望者の飼育体験の受入をしてくれます。

この井倉牧場利用組合の方々には、朗らかな性格とやる気と行動力を兼ね備え、長年培った技術と情報を駆使して、本当に「牛」が好きという姿には、爽やかささえ感じられます。



〔家保のページ〕

さあ再点検しましょう! ～飼養衛生管理基準～

高梁家畜保健衛生所

1 はじめに

畜産農家の皆さんにとって、「飼養衛生管理基準」という言葉を窮屈に感じる方は少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか？

「家畜を飼う上で、飼養者が守らなければならない衛生上の管理」ということですが、難しく考えてしまわず、自分のできる範囲で取り組んでいきましょう。

今回は、ポイントを絞った取り組み事例をいくつかご紹介してみます。

2 消毒事例

衛生面での基本として、農場に病原体を持ち込まないことが大原則です。

そのためには農場の出入り口での車輛、人等の消毒は必ず行いましょう。農家の方の中には、車輛消毒ということが大がかりに考える方もいらっしゃいますが、農場にある肩掛け噴霧器を使ったり、入口に消石灰を散布して石灰帯を設けるだけでも、十分消毒ができます。(写真1)



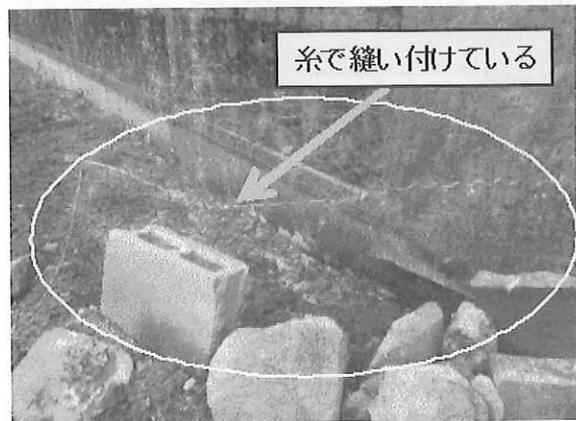
(写真1；肩掛け噴霧器での車輛消毒例)

3 野生動物の侵入防止事例

病原体の進入防止として、野生動物の対策も欠かせません。

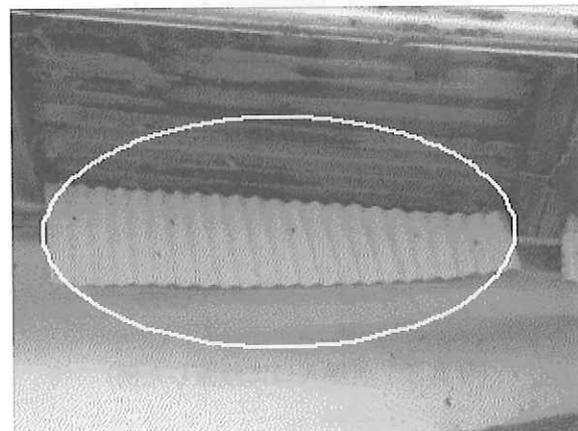
養鶏場では、野鳥の侵入防止をターゲットに、防鳥ネットを畜舎周辺に設置しています。

ただ、防鳥ネットも設置後、年月が経てば破れたり穴があいたりするため、こまめな補修が必要です。写真は、網が破れた防鳥ネットに新しいネットを縫い付け、さらに石を置くことで穴を塞いでいる例を示します。(写真2)



(写真2；糸で補修、石を置いている例)

また防鳥ネットに限らず、侵入防止としては畜舎に野鳥等が侵入しないよう、いかにうまく隙間を塞ぐかがポイントとなります。例えば、軒下の空いたスペースを波板で塞ぐという手法でも構いません。(写真3)



(写真3；波板で隙間を塞いでいる例)

これも養鶏場の例ですが、入口の戸を開けたまま餌やりなどの作業をしている方もたまに見られますが、中に入った後は必ず戸を閉めるよう気をつけましょう。

4 農場の出入り記録

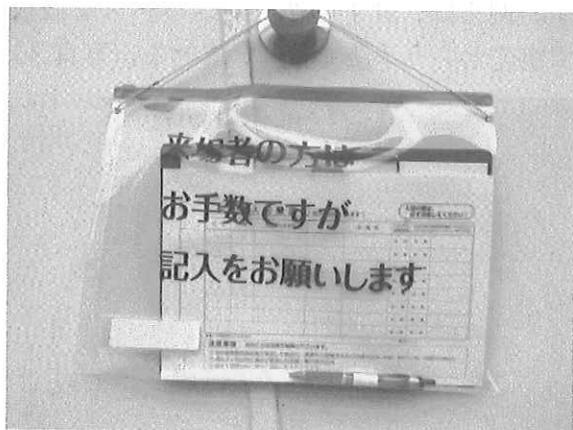
飼養衛生管理基準の中でなかなか取り組みにくいのが、人や車輛の出入り記録です。

そうしたこともあって、平成25年度には（一社）岡山県畜産協会が「記録用ボード」を作成し、県内全農場に配布しています。（写真4）



（写真4；記録用ボード一式）

写真は農場入口にボードを吊り下げている例を示しますが、入口付近の目につく場所に置いて、出入りする人に記録してもらうよう習慣づけましょう。1年間の保存が必要ですのでお忘れなく。



（写真5；農場入口に設置した例）

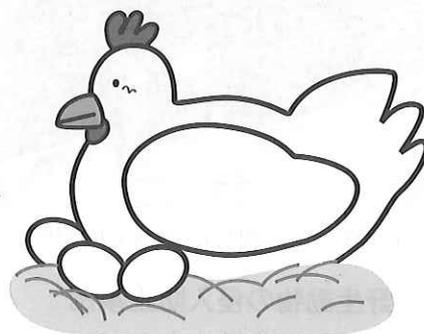
5 最後に

家畜を飼う上で、飼養衛生管理基準を守ることが自分の家畜を病気から守ることなのです。また病気がでないということは、それだけ経営面でも大きな効果が得られるということにもつながります。

今一度、飼養衛生の点検を行い、前向きに取り組んでいきましょう。

- 1 家畜防疫に関する最新情報を確認しましょう
- 2 衛生管理区域を設けましょう
- 3 衛生管理区域への病原体の持込みを防止しましょう
- 4 野生動物による病原体の侵入を防ぎましょう
- 5 衛生管理区域の衛生状態を保ちましょう
- 6 家畜の健康観察を行いましょう
- 7 埋却等の準備をしておきましょう
- 8 感染ルート等の早期特定のための記録を作成し、保存しておきましょう

<参考；農水省作成、飼養衛生管理基準パンフレットより>



〔共済連だより〕

家畜診療日誌

西部基幹家畜診療所 石井 さやか

今年4月から県南の西部基幹家畜診療所に赴任し、初めての夏を越しようやく秋になりました。前任地も県南でしたので、暑いよ暑いよと聞かされても、まあ同じくらいだろうと高を括っていましたが、本当に暑かったです。猛暑の折は息をするだけで熱が入ってくるような感覚を覚えました。涼しくなったこの頃、夏を振り返ると、農家さんから「今年の夏は涼しくて良かった。」という声が聞かれ、普段はこれ以上かと恐れ戦いています。

ところで先日、分娩前乳房炎検査の普及活動に立ち会う機会をいただきました。

分娩前の乳房炎検査についてはすでにご存知で、実行している方も居られると思います。分娩前は乾乳軟膏の効果が切れ、細菌感染のリスクが高い時期です。そこで分娩1週間から10日前の乾乳牛の乳汁検査を行います。検査前にアルコール綿で乳頭を消毒する、検査後は必ずディッピングするといった注意は勿論欠かせませんが、この検査による早産や乳房炎のリスクはありません。

日頃の診療においては、強く乳房炎の疑われるものについて検査を行うことがほとんどで、そういった牛の乳汁は誰がどう見ても異常で、明らかなPL反応が現れるため、判断は容易です。しかし今回のように、牛の体調にも乳房の外観にも何の問題も感じられない牛たちを何頭も検査してみる事は今までに無かったので、大変勉強になったと感じています。

分娩前の乳汁は強い粘度を持ち、シャーレを傾けても殆ど流れないか、極ゆっくり

流れるのが正常です。これより粘度が下がったり、水様や初乳様を呈するものに対し、PLテストを行い、問題なければよし、凝集反応が見られたら泌乳期用の乳房炎軟膏を挿入します。実際にやってみると、粘度も性状も牛や分房によって異なり、判定には少々慣れを要し、しかも初乳と異なり粘度があるので、PLテストと混合するのが大変です。指でよく混和し、光に当てて1分間凝集反応を観察します。

実はこれほど真剣にPLテストに向き合った事がなく、反省しています。いつもささっと水気を拭いて、ああ…搾る量少なかったなと思いつつそのままPLテストを投入、あ、泡入った。ということも。簡単に日常的な検査だけに、いつの間にか基本の手技から外れており、良い機会になりました。

こうして検査をしてみると、かなりの割合で異常をしめす分房が見られます。初産牛についても同様で、そういった牛のすべてと言わないまでも、多くが分娩後に乳房炎を発症する事を考えると、簡単かつ有効な検査です。分娩直後の乳房炎が多発し、お困りの時は実施してみても如何でしょう。

〔普及の現場から〕

井笠地域の取組紹介

井笠農業普及指導センター

井笠地域では、地域の畜産を盛り上げるため、関係機関と連携しながら農家への支援を行っています。今回はその取組について紹介します。

1 備南地区酪農経営支援チームの活動

備南地区酪農経営支援チーム（おか酪、県民局、家保、共済、普及、明治乳業）では、毎月定例検討会を開催し、今年度の重点課題、重点指導農家などを決めて重点的な支援を行っています。

(1) 活動内容

ア 定例検討会（1回/月）

今年度の重点課題を“ラクトコーダー[※]を利用した乳質改善”としています。また、例年低下する夏季の乳脂率を改善するため暑熱対策や牛舎環境改善指導に取り組んでいます。

イ 研修会

今年度は備南地区3か所の会場で、乳質改善、暑熱対策の早期着手など生産性向上のための取組について研修会を開催しました。

ウ ラクトコーダーを利用した乳質改善

搾乳現場に指導者が入り、これまでの手順確認の他、適正な洗浄が行われているか洗浄水のグラフ解析を行い、その場で畜主に解析、提案を行います。畜主からは「理解しやすく、行動に移しやすい」と好評です。

エ 暑熱対策

毎年取り組んでいるグリーンカーテン、ドロマイト石灰の他、今年度は新たに3戸の農家で畜舎屋根への無孔質セラミック塗装を行っています。この無孔質セラミック塗装は、県内初の取組で、その効果が期待されています。

オ 分娩前乳房炎検査

今年度、乳質改善対策として新たに分娩前乳房炎検査を指導しています。これは分娩予定日の7～10日前に乳汁を搾乳し、PLテストを行う検査です。暑熱ストレスによる乳房炎が多発する夏季対策として取り組んでおり、今年度は4戸の農家で実施しています。

※ラクトコーダー：ミルカーに装着し、搾乳手技、ミルカー洗浄の確認ができる機械。データ解析を行うことで正しい搾乳手技、ミルカー洗浄が可能となる。



〔乳質改善研修会〕



〔搾乳手技の即日解析〕



〔無孔質セラミック塗料を塗装〕



〔分娩前乳房炎検査を指導〕

2 J A岡山西地域における岡山和牛子牛資質向上対策の取組

J A岡山西和牛改良部会員（全24戸、繁殖牛頭数271頭）に対し、関係機関が連携し毎月1回巡回指導を行っています。また、部会員の資質向上をめざし、専門家による講習会を開催しています。

(1) 活動内容

ア 定期巡回

出荷間近の子牛（6か月齢以上）を中心に、体測による発育状況を調査し、出荷日の提案を行っています。これにより、全戸の子牛の資質及び価格を平準化させ、農家の所得向上を目指しています。



〔定期巡回〕

イ 講習会

今年度は、第1回目として、6月に税務署職員による肉用牛免税制度の説明、JA西日本くみあい飼料(株)から飼料情勢を、畜産研究所の片岡専門研究員からは四ツ☆子牛の枝肉成績について学びました。

10月30日には第2回目の講習会を開催する予定です。



〔講習会〕

3 (農)干拓コントラの取組

(農)干拓コントラは、笠岡湾干拓地にある酪農家5戸により平成15年11月に設立され、6条刈りコーンハーベスターやハイダンプワゴンなどを導入し、堆肥の利用と粗飼料増産を目指しています。

(1) 取組内容

ア 飼料用トウモロコシ二期作栽培

今年度も、借地（粗飼料基地からの借入）と自作地併せて212haで飼料用トウモロコシ二期作栽培を行っています。台風第8号の影響で、一部のほ場で倒伏が見られたものの、平年並みの収量が確保されました。



〔収穫作業〕

イ 自走式スプリンクラーを導入

平成16年度から始めた二期作栽培では、二期作目が干ばつによる発芽不良に見舞われるケースが多く、特に、平成22年度は収量がゼロとなりました。

平成24年度にも干ばつにより二期作目の収量が半分以下になるなど、経営に大きく影響したことから、今年度、自走式スプリンクラーの導入を行いました。今年度は活躍の場がありませんでしたが、来年度以降の干ばつ対策に大きな期待を寄せています。



〔自走式スプリンクラー〕

4 矢掛町におけるイネWCSの取組

矢掛町の今年度のWCS用イネの作付面積は42haとなっています。栽培品種は早生のコシヒカリから、中生のヒノヒカリ、晩生のアケボノ、そして専用品種である「たちすずか」が栽培されています。

今年度も栽培者を対象とした講習会を開催し、除草剤の適正使用と、収穫に向けたほ場準備を指導しました。

今年度は8月18日から収穫が始まり、11月下旬、「たちすずか」を収穫して終了する予定です。



〔講習会の様子〕

栽培面積等

(ha)

区分	コシヒカリ	ヒノヒカリ	アケボノ	たちすずか
栽培面積	4.1	3.7	34.3	1.0

(ha)

区分	平成23年度	平成24年	平成25年度	平成26年度
栽培面積	44.7	49.6	41.0	42.1



〔収穫作業〕

引き続き、関係機関と連携、役割分担を行いながら農家への支援を行っていきます。

岡山和牛のゲノム選抜の実用化に向けて

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室

1. ゲノムとは

ゲノムとは、ある生物が持っている全ての遺伝情報を表す言葉です。ゲノムは1セットの染色体に包み込まれています。ウシでは60本の染色体が1セットとなり、各細胞の核の中に存在しています。

遺伝情報の正体はDNAであり、DNAは4種類の塩基（A、T、G、C）によって遺伝情報を記録しており、AとT、GとCが対となって存在し（図1）、ウシのゲノムでは30億個の塩基対からなっています。また、個体間の違いは僅か0.1%（300万個）の塩基の違いによるものと言われ、この塩基の違いをSNP（一塩基多型）と言います。

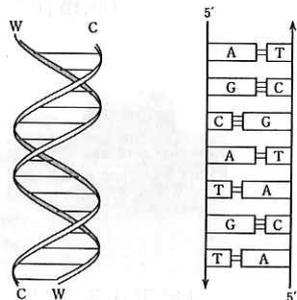


図1 DNAの二重らせん構造と塩基

近年のSNP型判定技術の進展は目覚ましく、スライドガラス程度の大きさのチップ1枚で数十万ものSNPを同時に、数千検体も判定できるようになっています（図2）。最近、ヒトでは数百項目にも及ぶ病気のリスクなどを判定する遺伝子検査が可能となっていますが、これもSNP型判定によるものです。



図2 SNP型判定に用いるチップ

2. 和牛改良におけるゲノム解析技術の利用

～優良領域の特定から次のステップへ～

畜産研究所では、これまでマイクロサテライトというDNA上に数百個程度ある目印を用いて、種雄牛DNAの優良領域を探索し、その後継牛の選抜に利用してきました。具体的には、『利花』の脂肪交雑に関する優良領域を特定し、それを受け継いだ『西花8』を選抜することができました。

この方法で特定される優良領域は、調査した種雄牛家系においてのみ有効ですが、各研究機関による多くの種雄牛での結果が集められ、黒毛和種の複数の家系において効果が認められる領域も見つかっています（表1）。

表1 複数家系で認められた優良領域

形質	優良領域名	染色体
枝肉重量	CW-1	14番
枝肉重量	CW-2	6番
枝肉重量	CW-3	8番
脂肪交雑	Marbling-1	21番
脂肪交雑	Marbling-2	7番
脂肪交雑	Marbling-3	4番

とはいうものの、優良領域を用いた改良の効果は限定的です。なぜなら、脂肪交雑の優良領域については、効果のある家系に限られたり、効果があっても非常に小さいためです。また、枝肉重量の優良領域については、家系によらず黒毛和種一般集団で効果が認められていますが、3領域の効果合計しても枝肉重量に関する遺伝能力の1/3程度しか説明できません。

そのため、どの形質にも活用できて、より効果的な選抜方法の開発が求められてきました。

3. 和牛におけるゲノム育種価算出の試み

乳牛では、近年ゲノム育種価という能力評価値が活用されるようになってきました。ゲノム育種価とは、ゲノム情報（SNP型）から推定した育種価（遺伝的能力）のことです。全てのSNPは遺伝的能力と関連があるとみなして回帰分析を行い、全SNPを説明変数とした遺伝的能力の回帰式（育種価の推定式）を作成します。その推定式にあてはめることで、SNP型を用いて育種価を算出できます（図3）。

これを和牛でも活用しようというわけですが、和牛特有の課題もあります。和牛は乳牛と比較して種雄牛数が非常に少ないため、乳牛のように基礎データとして種雄牛データを用いると推定式の精度が低くなってしまいます。そこで、和牛においては基礎データに肥育牛データを用いる方法で研究が進められ、通常出荷されているランダムな家系のDNAと枝肉形質を対象にしています。

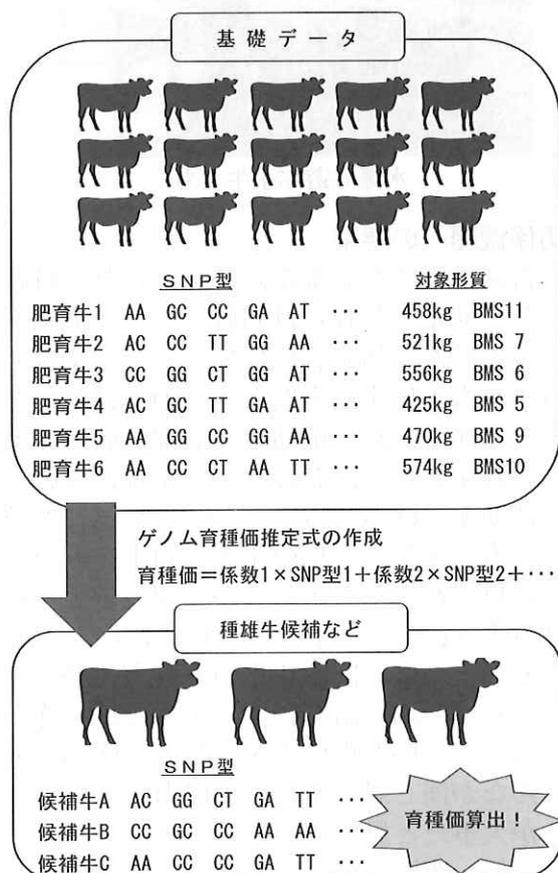


図3 ゲノム育種価算出のイメージ

4. ゲノム育種価による選抜のメリット

ゲノム育種価はSNP型の判定だけで算出でき、かつその精度も従来の期待育種価（両親の育種価の平均）より高いとされているため、個体選抜において今までになかったメリットがあります（図4）。

- ☆子牛（極端には受精卵）の段階で従来の期待育種価を上回る精度で能力を推定できる
- ☆親が若く、期待育種価を持たない個体でも能力を推定できる
- ☆全きょうだい間の能力の違いが判別できる

図4 ゲノム選抜のメリット

畜産研究所では、岡山和牛におけるゲノム選抜の実用化に向け、（公社）畜産技術協会附属動物遺伝研究所と共同で、本年度から研究を実施しています。

まずは岡山和牛集団におけるゲノム育種価の算出をめざし、基礎データとなる肥育牛のSNP型判定を実施しています（図3の上の段階）。今後数年間かけてSNP型判定を行って基礎データを蓄積する予定です。

今後、精度の高いゲノム育種価推定式を作成し、高能力種雄牛の作出等に活用することで、岡山和牛のさらなる改良に貢献できると期待しています。

(参考)

J.F.クロー「クロー遺伝学概説」（培風館）
渡邊敏夫ら「肥育牛2555頭を訓練集団とした黒毛和種種雄牛の枝肉形質ゲノム育種価推定の試み」（第118回日本畜産学会 講演要旨）

高須賀晶子「黒毛和種経済形質のゲノム解析」（動物遺伝育種研究 Vol.35）

イルミナ株式会社ホームページ

和牛に魅せられて

美作市 吉川 鉦三

和牛との出会い

大阪で生まれ育ち、飲食業を営んでいた私は、50歳になったら田舎で農業しながらのんびり暮らそうと決めていました。傾斜がきつくなき年老いても住むことのできる農地付きの家を探していたら、今の場所に出会いました。

美作に来て数年たった頃、近所の和牛農家が子牛を出荷するというので、興味半分で子牛市場を見に行きました。そこで偶然行われていた牛の見方講習会で、モデルを務めていた牛に一目惚れし、農協の人に頼んで競り落としてもらいました。当時は牛舎も何もなく、牛を連れて帰ってから庭に簡易小屋を作りました。1頭ではさみしいと思い次の市場でさらに2頭購入。庭に面する窓を開ければ3頭の牛と目が合う不思議な生活が始まりました。

受精卵移植を知って

翌年参加した和牛入門講座の中で、「和牛繁殖専業で利益を出すために50頭を目指せ」という話がありました。1頭40万円として牛だけで2千万円、そんな金額を長期間寝かせられる人がこの中にいるのかな？思わず回りを見渡しました。それから、それほどの金額をかけずに利益を出せる方法を一生懸命考えました。

その頃、受精卵移植という技術があるのを知りました。さらにエサ屋さんから、安く購入できるジャージーF1の話聞き、これを親にして和牛子牛を生産しよう！と思いつきました。さっそく蒜山に連れて行ってもらってヌレ子を5頭購入しました。その後も順次購入し現在15頭のジャージーF1を飼養中です。和牛の母牛6頭と9頭の子牛（ET産子を含む）で総勢30頭になり、近くの空き地を購入し建築した牛舎も、今や満杯状態で、増築準備中です。ジャージーF1の最初の5頭はすべて和牛受精卵が受胎しており、12月から順次出産予定です。

6次産業化と岡山和牛へのこだわり

将来は自分で育てた牛を食べて頂く店を出したいと思っています。収益性だけでなく、美味しい肉を手ごろな値段で食べて頂くことで、地域の方やお客さんが牛を飼う事への理解を深めてくれるのではと考えています。

また、岡山和牛にこだわった生産をしたいと思っています。目先の利益を求めて人気種雄牛の種を付けていると将来自分や後継者の首を絞めることになる気がします。岡山の種雄牛の成績が上がるような交配に皆で取り組めば結果的に将来自分たちに帰ってくると考えています。岡山の牛だから買いに来てもらえるような特徴ある牛を作っていきたいと思います。



水場で遊ぶ子牛たち。

関係機関への要望

畜産は大きなお金がかかり、どれだけ投資して何年でどれだけ回収できるか見当が付きません。初心者には併せて経営を教える講座も実施する必要があるのではないのでしょうか。また、補助金等も固定観念にとられず、いろんな経営スタイルに対応した補助が受けられるよう、県から国に要望してもらえればと思います。和牛を飼いたいと思った人たちがしっかり利益を上げられるようにサポートしてもらいたい。

もう一つは、岡山和牛のあり方・将来をざっくばらんに話し合えるような場を作ってもらいたいと思います。和牛に関わる人みんなが同じ思いを持って協力していくことが大事だと思っています。

追伸、花嫁募集中です!!

〔畜産女性の声〕

畜産って見えにくい!! 畜産って高次元だ!!

津山市 末澤 未央

平成22年に主人と和牛繁殖を始めて、今年で4年目になります。最初、畑だった場所に小さな牛舎を建て一頭の子牛から飼い始めて、現在は母牛・子牛合わせて20頭ほどを飼育しています。今まで消費者でしかなかった私達が生産者になったことで、畜産商品への知識・興味はずいぶん変化してきました。今までスーパーに行ってもほとんど値段しか見て購入していなかったお肉も、生産地や肉の種類を気にできるようになりました。

今、日本では世界の流れに伴い各業界への女性進出の気風が高まっています。農業界でも同じで農業女子という言葉が広く浸透してきました。農林水産省では農業女子プロジェクトとして全国の農業女子が企業とタイアップして農業女子の声を生かした製品開発に取り組んでいます。岡山では農業女子の地方版第一号としておかやま農業女子の活動がはじまりつつあります。それに先駆けて昨年からは、美作県民局管内の女性農業者の会（あぐり女史の会）に所属し、トマト農家、野菜農家、果樹農家さんなど知り合いになり、それぞれの農園を

巡ったり、うちの牧場にも来ていただいたり、野菜農家さんから牛のえさを提供してもらったり、堆肥を差し上げたりと交流を広げています。

そこで知り合った農業関係者から聞かれた声の中に、「畜産って農業界の中でも他の農産物に比べて生産過程が見えにくい」というのがありました。確かに、牛乳を始め、チーズやバター、アイスクリーム、お肉にハム、ソーセージなど毎日の食卓に身近なものは多いのに、そのほとんどは工場加工された物を店で買ってこるだけで、食べたことはあるけど、どの様な過程で作られているのかはあまり知らない事が多いように感じます。実際私が大学4年生のころに北海道で知り合った獣医さんから、「ホルスタインは牛乳を搾る為、母牛は子牛を産み続けないとならないのだ。」と教えられた時、「そうなの!!」と今まで考えてもみなかった事実に驚きました。まさに畜産生産物は動物の「いのち」をいただいているのです。

夏休み子どもの自由研究で牛肉について調べてみました。スーパーに売られている牛肉を分類し、実際にどんな牛の肉なのかを調べてみました。黒毛和牛、国産牛、外国産牛、それぞれの違いについて小学生目線から調べて、食べ比べもしてみました。今でこそ、牛を飼っているから解りますが、国産牛って何なのかきちんと知っている人は少ないと思います。また繁殖の観点から言えば、黒毛和牛だって過去には改良の為外国種が掛け合わせられているのだし、最近豪州産和牛なんていうものもあります。何も知らずに食べると「ただ美味しい」で



「あぐり女史の会」の方との市場見学

終わりですが、その生産背景や育成環境、生産者の思いにまでいたると一切れのお肉にも物語がたくさんあるはずです。

さくら牧場には、「最近、牛や馬やヤギを身近で見る事は珍しい」と帰郷してきた人や通りがかりの人が立ち寄り興味を示してくださいます。消費者の方がその飼育環境製造過程にも興味をもてるような牧場にしていきたいし、お肉がパック詰めされるまでの物語を自信をもって語れるような生産者になりたいと思います。また畜産業界としても生産過程の物語を生産者と消費者が共有し、考えていけるチャンスを多く持て

るようになれば、消費者が求めているものが見えてくるし、まだまだ魅力の多い業界なのではないかと私は考えています。



さくら牧場の放牧牛

〔ホットニュース〕

高梁市の上森亨・叔恵夫妻 全国自給飼料生産コンクールで入賞

備中県民局農林水産事業部農畜産物生産課

高梁市川面町の上森亨・叔恵夫妻が、7月18日に第1回全国自給飼料生産コンクールで一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞を受賞されました。本コンクールは、自給飼料の効率的な生産及び利用技術並びに放牧等の環境に調和した持続的な生産・経営方式等優秀な事例を表彰することで、飼料基盤の重要性を啓発することを目的に開催されました。

上森さんの経営については、「中山間地の条件不利地であるにもかかわらず積極的に二毛作に取り組むなど、まずは出来ることから粗飼料自給率を上げている」と、審査委員長から高く評価されました。

上森さんは中国四国酪農大学を卒業後、祖父の酪農経営を継ぎ、現在は搾乳牛約30頭・育成牛25頭を祖父母及び妻の叔恵さんと飼育しています。育成牛の一部は高梁市大池山育成牧場に預託して労力を低減しています。また、飼料コスト低減のため、自己有地と耕作を中止した近隣の田畑

を借受けた約3.3haに、春はイタリアンライグラスを、夏はトウモロコシ、スーダングラス及びグリーンミレットを作付け、自己の経営に適した粗飼料の生産を行っています。さらに、耕種農家と連携し専用品種「たちすずか」のイネWCSも利用しています。

受賞後に上森さんは「これを機に、今後無理な規模拡大は行わず、耕作放棄地等を借り受け飼料自給率を向上させたい！」と意欲を語ってくれました。



上森夫妻と長男（牛舎前にて）

第54回岡山県農林漁業近代化表彰受賞 ～有限会社まつだ牧場～

備前県民局畜産班

さる10月23日(木)、県庁3階大会議室において「農林漁業近代化表彰」が実施され、畜産部門では、岡山市の有限会社まつだ牧場が受賞されました。

【評価の視点①】

当牧場は、昭和46年に津山市から現在の岡山市北区御津河内へ移転し、傾斜地の多い地を活かし放牧を主体にした酪農経営を開始しました。その後、経営の多角化、安定を図るため導入した和牛繁殖牛を放牧利用(蹄耕法)し、造成整備に要する経費の低減を図りながら、徐々に放牧地の整備を進め、現在約25haにまで経営地を拡大しています。放牧地では、乳用育成牛、乾乳牛及び和牛繁殖牛を飼養し、自家育成で母牛の更新や増頭に取り組むことから、足腰が強く耐用年数の長い牛が確保されるなど、立地条件を活かした経営が展開されています。

【評価の視点②】

早い時期(昭和35年)に法人化したことで、複式簿記記帳を先駆的に取り入れ、経営の効率化を図るなど、経営の新たな発展方向を見いだす中で和牛繁殖経営に取り組み、その後肥育も手がけることで、乳肉複合・和牛繁殖肥育経営へと発展させており、県下でも特色ある経営体となっています。さらに平成17年には、自ら生産した生乳を使用したアイスクリームの生産・販売に取り組むためミルク工房を開設し、新鮮さと美味しさを存分に活かした季節限定商品の開発に邁進するなど、顧客に認められるための努力を続けており、多くの消費者が牧場を訪れています。

【評価の視点③】

アイスクリーム製造に適した高品質な生乳生産を行うため、牛舎の改造、搾乳方式を転換するなど、経営の規模拡大と省力管理を確立させています。

また、乳用牛及び和牛ともに、受精卵移植技術の活用から乳用後継牛の確保、和牛子牛の増産及び能力の高い繁殖雌牛への更新を図っており、高い育成技術から乳牛共進会での上位入賞も果たし、技術を研鑽しながら、県下の乳牛のレベルアップにも貢献しています。

さらには、従業員に人工授精や受精卵移植の免許を取得させるなど、スキルの向上に努めています。

【評価の視点④】

地元中学生の課外授業や酪農大学校生の積極的な受け入れなど、畜産PRと担い手の育成に貢献しています。

また、県北の和牛繁殖農家から冬期間の繁殖牛管理などを放牧で受託し、和牛の増頭対策にも貢献しています。

こうした近代的企業的経営の取り組みとそれを持続するための努力、地域への貢献が評価され、受賞へとつながりました。



【まつだ牧場風景】



【ミルク工房】

生乳検査NOW：H26年度上期

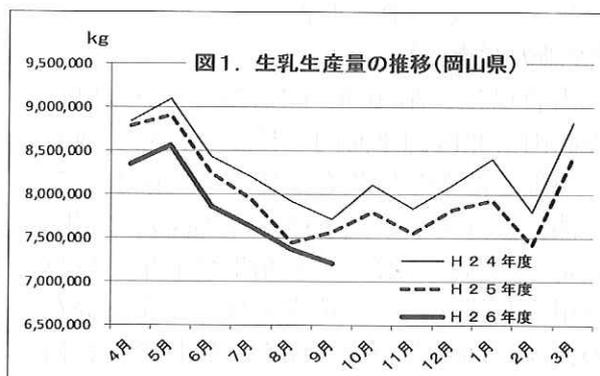
(一社) 岡山県畜産協会生乳検査センター

生乳生産基盤の脆弱性が叫ばれ、生産乳量の減少が続くなか、長雨と日照不足は、農作物や家畜への影響も危惧された。そんな本年度上期を終えた今、生乳検査成績を通して乳質の現況を見てみたい。

1. 生乳生産量

図1は、平成24～26年度の生乳生産量の推移であるが、今期生産量は46,950トンで、対前年比96.1%。昨年同期の約4%の減産となっている。平成25年度上期の対前年比は97.4%であり、減少幅が大きくなっている。

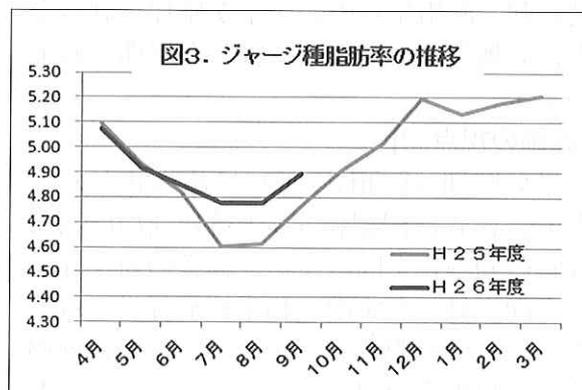
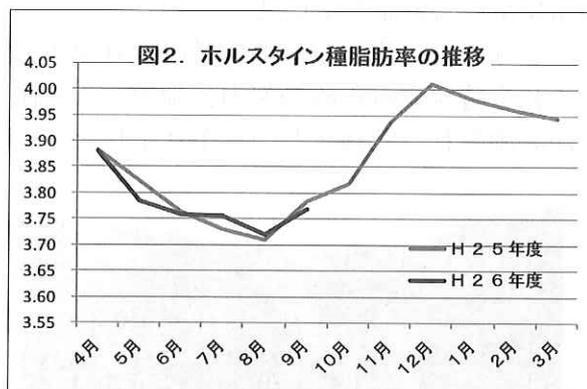
中国地区全体についても同様の傾向で、今期の対前年比は、95.0%であった。



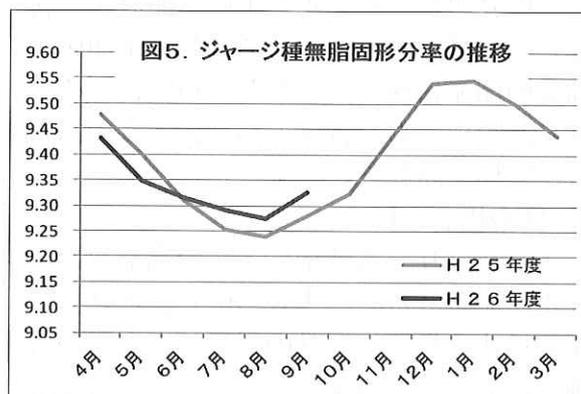
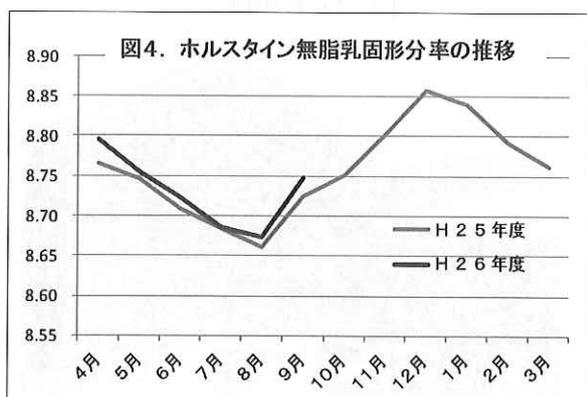
2. 乳成分

(1) 乳脂肪率の推移

図2、図3は、ホルスタイン種及びジャージ種の平成25年度と26年度上期の、乳脂肪率の推移である。



ホルスタイン種は、ほぼ昨年と同様であるが、ジャージ種は、夏期の脂肪率が昨年を大きく上回っている。



(2) 無脂固形分率の推移

図4, 図5は、ホルスタイン種及びジャージ種の無脂乳固形分率の推移である。

いずれも、昨年に比べ高い傾向にあるが、ジャージ種の無脂乳固形分率は、夏期において、顕著に昨年を上回っている。

3. 体細胞数

図6は、本年度上期の各県の体細胞数適合率を、各月の旬別にみたものである。

横軸の表示は、「月-旬」を示し、1:上旬、2:中旬、3:下旬で、4-1は4月上旬を示す。黒の太線が岡山の適合率の推移である。

昨年度は中国地区で二番目の好成績で、年間を通じてほぼ70%以上の適合率を維持したが、本年9月下旬の成績では、適合率63.4%と大幅に低下している。

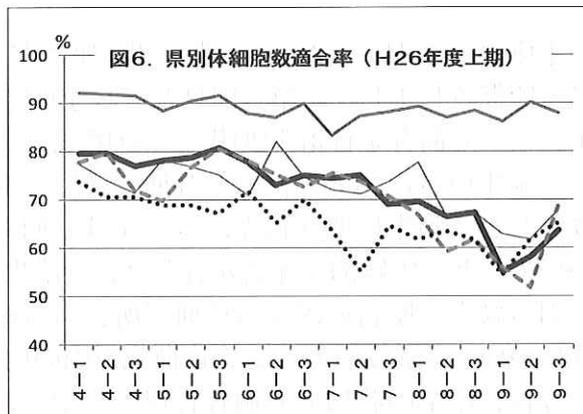
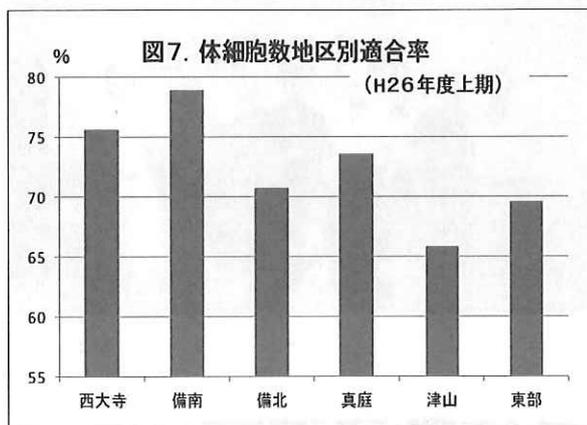


図7は、本年度上期総検体数の適合率を、地区別にみたものである。地区間で13%の差があり、改善の余地の大きいことがうかがえる。

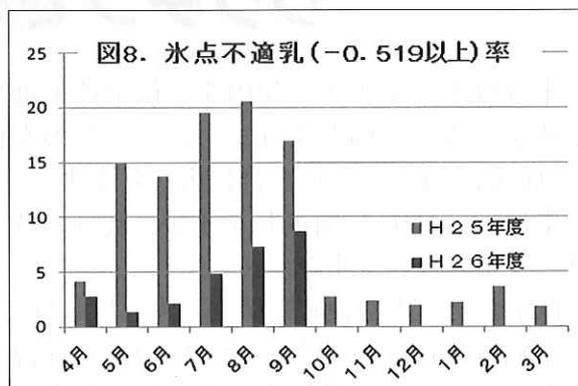


体細胞数 (SCC) については、色々な声も聞かれるが、SCCは牛の飼育管理と搾乳技術の総合指標であり、酪農経営において最も重視すべきインジケータの1つと考えられる。

4. 氷点

氷点は、生乳の「水っぽさ」を示すもので、生乳中への水の混入をチェックする手段に用いられてきた。現在でも氷点が高いと、まず加水を疑う必要がある。

一方、氷点は飼料給与の適否の指標としても注目されている。-0.520を境界値とし、それ以下(マイナスなので、数値は大きくなる。)を健全な生乳、それより高いものは加水や、栄養状態が良くない牛の生産した「問題の有る生乳(不適乳)」と考えられる。図8は、氷点が-0.519以上の月別発生率である。今上期では、235検体が-0.519以上の「不適乳」であったが、その多くは、特定の農場に集中しており、該当農場では、早急に原因究明と対策が望まれる。



なお、今期は昨年に比べ、不適乳率が低く推移している。これは、今期の無脂乳固形分が、昨年より高かった事とも連動するもので、氷点の飼料給与状況指標の一面を示すものである。

〔お知らせ〕

平成26年度和牛入門講座がはじまりました!

(一社) 岡山県畜産協会 経営指導部

平成26年9月6日(土) 和牛入門講座の開講式が岡山県農林水産総合センター畜産研究所にて開催されました。第8期目となる今年度は、酪農からの経営転換、牧場勤務からの独立、Iターンで飼育を目指す20代から80代までの6名が参加。

受講生の自己紹介の後、第3期受講生である末澤雅彦氏・未央氏により近況報告が行われました。和牛に取り組んだきっかけや飼育状況、また入門講座で知り合った人脈作りについてなど、実践的な報告が行われ、受講生も興味深く聞き入っていました。

引き続き、県畜産課や畜産研究所、当畜産協会により繁殖経営や制度・法令また飼養管理について講義が行われ、畜産研究所内の肉用牛飼育施設の視察を行いました。

今後、県下の牧場での飼育管理実習や家畜市場での視察研修を重ね、受講者全員が無事に修了できるよう講座を進めて参りますので、実習受入牧場など関係機関の方々にはよろしく御協力下さい。



伝染性下痢症による泌乳量低下は ワクチンで防ぎましょう!

牛コロナウイルスに起因する伝染性下痢症が猛威をふるう季節となりました。突然の水様性下痢に始まり、すぐに全群に広がります。

牛は7~10日で回復しますが、乳量の低下は2~4週間続きます。

低下したまま回復しないこともしばしばです。

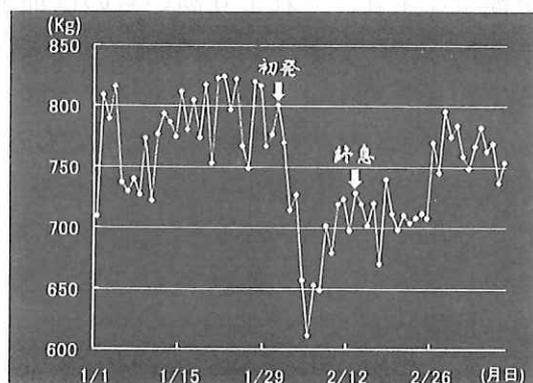
本病は死亡することが少ないので、軽視されがちですが、経済的損失が大きいことから、ワクチン接種により予防することが大切です。

○接種料金：下記にお問い合わせ下さい。

○接種回数：初めての牛は1ヶ月間隔で2回（接種経験有りの牛は1回）

○申込方法：NOSAI 家畜診療所・おか酪家畜診療所・開業獣医師

(一社) 岡山県畜産協会支部 (各家畜保健衛生所内)



発生農場の出荷乳量の推移(A農場)

畜産分野における動産担保融資(ABL)について

(一社) 岡山県畜産協会

畜産経営は、施設の整備に多額の資金が必要で、また肉畜経営においては家畜導入にも一定間隔で資金が必要となります。これまでは、畜産経営が資金調達する場合、農協等系統金融機関や(株)日本政策金融公庫などから、保有する不動産や経営者の個人保証を中心に資金を調達してきました。

このような中で、平成17年、金融庁から担保・保証に過度に依存しない融資の推進と資金調達手法の多様化が各金融機関に要請され、その具体的な例として「動産・債権譲渡担保融資」= ABL (Asset Based Lending) が示されました。

畜産分野では、金融機関が動産(牛、豚等)を担保に取得し、担保資産の内容を常時モニタリングしつつ、担保資産の一定割合を上限に、家畜導入資金等の運転資金の貸出を行うこととなります。

本県では酪農2件、肉用牛1件のABLによる資金調達事例がありますが、まだまだ一般的な資金調達手法となっております。

本協会では平成26年度より、(一社)中央畜産会からの委託を受け、畜産ABLを推進するため、県、融資機関等と連携し、畜産ABL活用推進事業に取り組んでいます。

畜産ABLの詳細については下記にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 (一社)岡山県畜産協会 経営指導部
TEL 086-222-8575 担当 本松

果物・野菜用
植物活力剤

乳酸菌系葉面散布剤

ラクトのチカラ

細胞の活性化 生育促進



使用目安(方法) 良く混ぜてからお使い下さい。育苗時・本圃定植後に500倍~1,000倍に水で希釈し葉面に散布してお使い下さい。施用回数は7日~10日に1回が目安です。生育状況に応じて散布回数を調整して下さい。使用後は噴霧機など機器内に希釈液が残らないように洗い流して下さい。目の細かい機器を使用する際は、目詰まり防止のためフィルターをご使用下さい。

〔植物活力剤〕〔窒素・リン酸・加里各1%未満〕〔成分:豆乳・ブドウ糖・クエン酸・乳酸菌〕〔保存上の注意:乳酸菌等の働きにより、ガスが発生する場合があります。希釈した液は保存できませんので、その日の内に使い切して下さい。開封後はなるべく早く使い切して下さい。〕〔飲用不可〕

有機栽培なら

灌水チューブで水と一緒に流してOK!

根張りが良くなる! 根の活着促進! 育苗日数短縮!



製造総販売元

フタバ飼料株式会社 バイオ事業部

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1
TEL 086-953-0832 FAX086-953-1870

e-mail:info@futabashiryo.co.jp

農ヘルパー事業の全国展開を図る予算の獲得です。後者につきましては、酪農ヘルパー全国協会の情報誌「酪農ヘルパー（第62号）」に「現行酪農ヘルパー制度構築への想い出」を御一読いただければと思います。

退官後の最初の職場の日本畜産副産物協会は、牛海綿状脳症（BSE）の日本での発見後1年を経過した平成14年10月から、BSE発生の影響を最も受けたとってよいレンダリング（肉骨粉・動物性油脂）、原皮、可食内臓の3業界を会員とする協会であり、業界活動もさることながら、BSE対策の補助事業の実行機関としての機能を求められていたときであり、特に、200億円の予算が2月で無くなり翌年度予算で対応するという事態も生じたほど多額の補助事業である肉骨粉適正処分緊急対策事業は、事業実施要領の改正のほか、補助事業に不慣れな事業者に対しては申請書の記入要領、協会職員に対してはチェックリストの作成等円滑な事業実施に精力を注ぎました。

また、平成16年2月に発生した兵庫県、京都府、岡山県に6養鶏場を経営する（有）浅田農産の鳥インフルエンザに係る170万羽の処理に協会を挙げて東京都から鹿児島県までのレンダリング部会員の協力を得て終了し、農林水産大臣からの感謝状を受領しました。

また、協会勤務時に会員から「いつまで役人のつもりなんだ」と言われたこと、その後、別の会員から「協会の人になったね」言われたことも心に残る事柄です。

この後に勤務することとなった全酪連も含め、行政に対する厳しい見方が強いことを意識しました。

平成19年7月から全酪連勤務となりました。前会長が任期2年を残し勇退され、現会長が非常勤理事から会長に就任されるのと時を同じくすることとなりました。

当時の全酪連は、平成8年3月に発覚した長岡工場と宮城工場の牛乳不正表示事件で、市乳事業を分社化、平成17年の飼料製造部門の別会社化等を行っていたが、全酪連単体でも累積損失を抱えた状況にありました。

その後、全酪連単体の累積損失の解消、子会社との連結での累積損失の解消、固定

資本の不足の解消、出資配当の復活、利用分量配当の実施と回転出資金の復活等全酪連在任中に実現できたことは、幸いなことでした。

市乳部門の分社化以降、平成12年6月の雪印乳業(株)大阪工場での食中毒事件、13年の雪印食品(株)の牛肉偽装事件で経営存続が危機に陥った雪印乳業(株)の市乳部門と全農の子会社の全国農協直販(株)、全酪連の子会社のジャパンミルクネット(株)が統合して平成15年に発足した日本ミルクコミュニティ(株)（メグミルク）となってからの全酪連は、乳業界での力を失い、その後の平成21年のメグミルクと乳製品製造に特化して存続していた雪印乳業(株)との経営統合、23年の新生雪印メグミルク(株)に至る今、現在の酪農業界と乳業界との関係をもるにつけ、全酪連の平成8年の牛乳不正表示事件なかりせばと残念な思いです。

昨今の政界も含め社会の動きをみるのに、私たちは、何をすべきか、すべきであったか考えさせられること多々あります。自ら率先しての行動を執る活力もありませんが、これからも日本の畜産の応援団としての意識を持ち続けていきたいと思っています。

最後になりますが、全酪連の入会式後に与えられた新入職員に対する私のレジメの一部を紹介し、終わりにさせていただきます。

仕事とは、①「生活の糧を得る」ためではなく、行動を通じて「社会に貢献する」こと。「社会」とは、一義的には、会員農協・酪農家、消費者。②自分の考え方で、社会を変革すること（自営と就職の違い）

組織人とは、プライベートな場所にあっても、常に全酪連職員（役職員個人の行動は、全酪連の行動。自分の判断のみで行動しない（前例の確認、規程・規則の確認）

風通しのいい職場とホーレンソー（報告・連絡・相談）

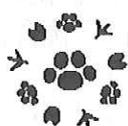


プロフィール

さかもと としふみ
昭和22年旧新郷村生まれ。
岡山大学畜産学科卒業、昭和48年農林省入省。畜産経営課、自給飼料課、農畜産業振興事業団、九州農政局生産経営部長を最後に退官。平成14年から日本畜産副産物協会、19年から全酪連専務、本年7月退職。

取扱品目のあらまし

動物用ワクチン・血清類一切, 獣医畜産用薬品全般
 家畜・家禽の飼料添加剤各種, 獣医畜産用器具機械類
 衛生材料(ガーゼ・脱脂綿・繃帯・その他)
 土壌関係検査測定器具・試薬



JYUCHIKU Co. Ltd.

株式会社 ジュウチク

岡山市北区奉還町4-4-11 岡獣ビル内 TEL 086-214-2288
 FAX 086-214-2287

Takanashi



タカナシ

倉敷牛乳

岡山県産生乳限定



タカナシ乳業株式会社 横浜市旭区本宿町5 お客様相談室 ☎0120-369-059
www.takanashi-milk.co.jp 土・日・祝日を除く 9:00~12:00, 13:00~17:00



オールインワンが自信を持ってお届けします



ベストセラー ポバインシリーズ



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式会社 **オールインワン**

中国支店 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
 TEL (086) 427-6300 FAX (086) 427-6011

高知競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

中国地区5県の畜産協会では、11月8日(土)に高知競馬場において中国地区畜産協会長杯を開催しますので多くの皆様のご来場をお待ちしています。

11 月				12 月			
開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考
1 土 ○	ナイター	17 月		1 月		17 水	
2 日 ○	ナイター	18 火		2 火		18 木	
3 月		19 水		3 水		19 金	
4 火		20 木		4 木		20 土 ○	ナイター
5 水		21 金		5 金		21 日 ○	ナイター
6 木		22 土		6 土 ○	ナイター	22 月	
7 金		23 日 ○	ナイター	7 日 ○	ナイター	23 火 ○	ナイター
8 土 ○	ナイター	24 月 ○	ナイター	8 月		24 水	
9 日 ○	ナイター	25 火		9 火		25 木	
10 月		26 水		10 水		26 金	
11 火		27 木		11 木		27 土	
12 水		28 金		12 金		28 日 ○	ナイター
13 木		29 土		13 土 ○	ナイター	29 月	
14 金		30 日		14 日 ○	ナイター	30 火	
15 土 ○	ナイター			15 月		31 水 ○	薄暮
16 日 ○	ナイター	ナイター(15:30~20:50)		16 火		ナイター(15:30~20:50)	

※12月31日は13：30～19：50

あとがき

8月に国内で約70年ぶりにデング熱が確認され、今日までに18都道府県で159人が感染している。デング熱は、ウイルスに感染した患者を蚊が吸血し、他者を吸血することで感染する病気で、発熱、頭痛、筋肉痛を発症する。身近にいる蚊が媒介するため、防御しにくく、ワクチンも無いため国民の間で不安が広がった。畜産農家にとっても、蚊は天敵である。家畜でも蚊の媒介により感染が拡大する各種の伝染病があり、時に大きな被害をもたらす。妊娠した牛の早流死産や子牛の体型異常を起こすアカバネ病、チュウザン病、アインウイルス感染症。発熱、呼吸器症状等を起こす流行熱、イバラキ病などである。しかし、これら伝染病には幸いにもワクチンが有り、適切に接種していれば防ぐことができる。今回の事例に遭遇し、改めてワクチンのありがたさを痛感させられた。しかし、喉元過ぎれば熱さ忘れるのが世の常。感染防止のために今後ともワクチン接種の推進に努めたい。(N・S)

岡山畜産便り 10月号(秋季号)

第65巻第6号(通巻653号)
平成26年10月25日発行
定価250円(消費税・送料含)

発行人 樋口義男 編集人 柴田範彦
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階
TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031
印刷所 岡山県農協印刷株式会社

いつも「行く」からこそ
見えてくる。



オリオンルートプログラム

ORION ルートプログラマーは、日々全国の酪農家の皆さまの下に足を運び、機器の点検を始めとした経営向上のサポートをしています。

- ① 機器の点検サービスの提供
- ② 乳質改善のお手伝いサービス
- ③ 新しい技術情報の提供サービス

 **中国オリオン株式会社**

岡山本社 〒702-8022 岡山市南区福成2-14-23 TEL.086-263-1221
営業所：岡山・津山・広島・上下・鳥取・出雲・小郡・大阪

岸化学グループ

 **株式会社 正和**

代表取締役 岸 小三郎

岡山本社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号

TEL 086 (450) 3807
FAX 086 (450) 4008

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58

TEL 0829 (40) 5177
FAX 0829 (40) 5178

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

TEL 0847 (54) 2007
FAX 0847 (54) 2008

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

TEL 0857 (50) 1736
FAX 0857 (50) 1738

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

TEL 0868 (62) 1232
FAX 0868 (62) 1233

取扱品目

死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物